

ディレクター日誌 (活動・参加者の様子)

期 日：平成29年8月2日(水)～8月5日(土) 【3泊4日】
場 所：山口県十種ヶ峰青少年自然の家とその周辺山域 (阿東町)
参加者：チャレンジ・クエストプログラム参加児童の保護者9名

1日目 「開会式 ～ キャットウォーク」

8月2日(水) 晴れ
十種ヶ峰青少年自然の家・キャンプ場
テーマ：体験の日 (仲間とのアイスブレイキング)

【活動の様子】

今年度の参加者は9名で、父親6名、母親2名、祖母1名という構成となった。我が子をチャレンジプログラムに参加させたい、自分がキャンプを楽しみたい等、参加理由は様々であったが、縁あって出会った仲間たちとの4日間がスタートした。

はじめのつどいの後、アイスブレイクとして名前を覚えていくゲームを行った。これからどんなことがあるのだろうと少し緊張気味であった参加者の表情が笑顔に変わり、気持ちがあほぐれてきたようだった。

次に、手のひらピーニングについての説明を受け、1枚の旗に各自の手のひらをなぞり書き、その中に子育てで大切にしていること等を書き込み、お互い紹介し合った。

その後、大きなザックに各自が持ってきた荷物や貸出道具、食糧を詰め込むダッフルシャッフルをした。個人の装備は自分で背負うが、共同の装備は誰が何を所持するかを決めなくてはならない。食糧を分けたり、ゴープ(行動食)を袋詰めにしたりと、全員で協力して行っていた。

最初の食事となる昼食は、 α 米とみそ汁だ。道具の使い方のレクチャーを受けながら、お湯を沸かしたり食器を準備したりしたが、さすがペアレント、作業の手際がよくあっという間に準備が完了した。食事を食べる前の儀式?チャウを行い、みんなで「いただきます。」。味の違うご飯を交換しながら、楽しいランチタイムになった。

片づけ後、いよいよ出発。先ほどのザックを背負うと荷物の重さに心も重く…。みんなで一列になり、今日の宿泊場所へ移動する。移動距離は短い、その間にも地図の見方、コンパスの使い方、声のかけ方等、明日の山道を歩く活動を見越してのレクチャーがある。宿泊場所に到着後は、テントとタープの設営だ。これまでの経験を生かし、あっという間に設営完了。こういう頼もしい親の姿をぜひ子供たちに見せたいものだ。

今日のメインの活動となる十種ヶ峰森のチャレンジコース「キャットウォーク」に挑んだ。命綱をつなぐハーネスを装着し、やり方の説明を受ける。丸太を登り、渡るチャレンジャーと命綱を持つビレイヤー等、この活動にも役割分担がある。2グループに分かれ、チャレンジの順番を決める。登る前には自分がどこまで行きたいかみんなに向けて宣言し、聞いた仲間がそれをサポートしていく。とても一人ではできないチャレンジだ。みんなのサポートがあるからこそ、自分がチャレンジできるのだということに気づく活動でもある。

チャレンジが始まると、回数を重ねる毎に周りから声がかかる。自分がチャレンジした後だからできるアドバイスもあるのだろう。下から見ているのと、実際に登ってみるのとでは大違いである。だからこそ、このペアレントプログラムで子どもたちと同様の活動を実際に体験することは意味深い。目の前のことに集中し進んでいくチャレンジャー、命綱を持ちそれを真剣に支えるビレイヤー、チャレンジャーの達成を自分のことのように喜ぶ仲間、どれも素敵な姿だ。

《タイムスケジュール》

- 10:10 はじめのつどい
アイスブレイク
- 11:00 ビーイング
ダッフルシャッフル
- 12:30 昼食
- 14:00 体育館発
- 14:20 キャンプ場着
テント・タープ設営
- 15:00 ウォーミングアップ
- 15:40 キャットウォーク
- 17:00 夕食準備
- 18:00 夕食
- 19:05 ジャンボさんのお話
- 19:40 ミーティング (Hi-Lo)
- 22:00 就寝

その後の振り返りでは、「できないかと思ったがやってみたらできたのは、みなさんのおかげ。」
「高いところが苦手だが下で支えてくれる人がいて、たった一本のロープがあるだけで安心できた。」
「相手の命がかかっているのでビレーがこわかった。」などの活動中の思いを共有した。スタッフからは、グループの様子だけでなく、この活動を通して子育てについての投げかけがあった。チャレンジャーが子どもでビレイヤーが親とした場合、子どものチャレンジをいつもどんなふうにサポートしているだろうか。子どもが落ちないように命綱を張りすぎて動きづらくしていないか、目を離して綱が緩みすぎていないか。自分が親として子どもにどんなサポートをしていきたいかを考える機会にもなる活動だった。

夕食はクックを中心にラーメンをつくる。台所とは勝手が違うが、材料をもとにどう調理するかを話し合いながら調理していく。つけ麺風の見た目も美しいラーメンが完成した。食後のコーヒーを飲みながら、本部スタッフのジャンボさんから初代ペアレントプログラムのディレクターとして、また山口県にこのキャンプのプログラムを導入された重鎮の一人として、活動の普及に努めてきた先駆者たちの思いを語っていただいた。

夜のミーティングでは、一日を振り返って気持ちの高揚したポイント（ハイポイント）と沈んだポイント（ローポイント）を各自で紹介してもらった。ハイポイントは、みんなで夕食を作ったとき、キャットウォークができたときなどがあった。ローポイントは、駐車場から坂を上ってきたとき、ザックをかついだときなど様々であり、ミーティングを通して、同じ活動をしていてもそれぞれ思っていることは違うことが確認できた。また、明日の活動に向けてルート等の確認をし、「ピークアタックに向けてのスキルアップ。みんなが言いたいことを言えるチームづくり。」という明日のグループ目標ができた。



2日目 「バックパッキング～個人ふりかえり」

平成29年8月3日(木)

十種ヶ峰青少年自然の家キャンプ場～神角神社奥
テーマ：挑戦の日（困難の克服と魂の休息）

【活動の様子】

2日目は5時起床。朝食後、テント・タープを撤収。出発準備等、思っていたより時間がかかったようだが納得のいくようにパッキングを行う。

7時30分、神角神社に向けて出発。イントラとサブイントラのレクチャーのもと、子どもたちも歩いた山道を歩いていく。重たい荷物を背負って、山道を歩くことは体と心に負担がかかるが、コミュニケーションをとりながら、時に歌を歌いながら進んでいく。神角神社奥に到着し、テント、タープを設営する。

休憩も兼ね、個人の振り返りをするためにソロに入る。ソロの場所にディレクターが一人ひとりを順番に案内する。こんなところで！？と驚いた方もいたようだが、案内された場所にブルーシートと銀マットを敷き、ザックを下ろし、ソロトップ（天気良かったので張らない人がほとんど）を張って、自分の空間の確保をする。ソロ中に各自で昼食をとってもらう。

約3時間のソロの後は、神角神社奥へ。目を閉じて移動した先に待っていたのは、イントラやサブイントラ、本部スタッフが愛情込めて盛り付けたフルーツが！夕食も兼ねて、みんなでソロ明けフルーツパーティー。ソロ中どんなふうに過ごしていたかななどをみんなでわいわいおしゃべりしながらの楽しい夕食タイムになった。

ソロの場所は、想像していたような（高原のような）快適な場所ではなく虫との格闘が大変だったようだが、逆にそれを受け入れて自然と一体化し自分も自然の一部だと感じたり、自分のもっている道具を工夫して使ったりすることで快適に過ごせたなどの感想があった。また、過去に子どもがキャンプに参加したときに、「ソロ中に書いた手紙を受け取ったらそっけない内容でがっかりしたが、自分が体験したら疲れていたんだなあ、体を休めることが大切だったんだなあと今なら許せる。」と話された方がいた。まさに体験したからこそ分かることで、それこそがペアレントプログラムの目的である。

明日に向けてのミーティングでは、一日の出来事を振り返りながら明日に生かすための意見交換ができた。「TEAM オー！」という名前も決まり、3日目の目標「One for all, and all for one」や思いを表すイラスト等を旗にかいていく。十種ヶ峰の山頂に向けて、みんなの気持ちを一つにできた。

《タイムスケジュール》

5：00	起床
5：30	食事
6：00	テント・タープ片付け 出発の準備
7：30	キャンプ場発 ～バックパッキング
12：00	神角神社奥着 テント・タープ設営
13：00	個人ふりかえり場へ出発
16：30	終了の声かけ開始
17：00	個人ふりかえり終了
17：10	フルーツパーティー開始
19：00	ナイトミーティング
22：00	就寝



3日目「ファイナルツアー～ピークアタック～ラストナイトミーティング」

平成29年8月4日(金)

神角神社奥～十種ヶ峰山頂～十種ヶ峰青少年自然の家
テーマ：覚醒の日（実行力と協調性）

【活動の様子】

3日目も晴天。5時に起きたメンバーは、声をかけながら朝食準備、テントやタープの撤収、パッキングとすっかり手慣れた様子で、予定通り7時出発。昨晚のミーティングで共有した思いを胸に、TEAM オー！のファイナルツアーが始まった。

イントラは様子を見守りつつ、グループに任せて少し離れて歩く。ナビを中心にみんなで地図を見合い、ルートを確認しながら歩いていく。途中、道とは思えないルートに驚くが、そこには前日子どもたちが踏みしめた足跡が…。急な斜面に心が折れそうになるが、子どもが歩いたとなると踏み出す力が出てくる。藪をかき分け、助け合い、手を取りながら力強く進んでいく。

11時、ジャンボさん、かつさんが待つ十種ヶ峰山頂に到着！お互いに喜びを分かち合いながら、笑顔でハイタッチ！自分たちで担いで上がった水をかけ合い、さらに笑顔！チームで話し合っ場所を決め、子供たちも見ただであろう景色を眺めながら、昼食をとり山頂の時間を楽しんだ。

12時5分、下山開始。昨日登ってきた道を今日は下る。十種ヶ峰青少年自然の家では、子どもたちがクリーンナップの真っ最中。出会わないように気をつけながら自然の家に到着した。

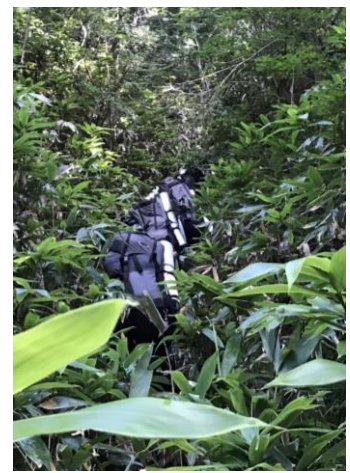
到着後、早速クリーンナップ開始。使った道具に感謝をしつつ、テントやタープを干し、ザックやスパッツ、フードバックなどの汚れを落として乾かす。交代でお風呂に入りながら、自分にできることを考え作業をしていく。今日の夕食ちらしずしができあがり、みんなで食べる。久しぶりのお米は、とってもおいしい。

夕食後は自然の家の中でラストナイトミーティング。建物の中だが、あえて電気は使わず、外でのミーティングのように行う。まずは今日のファイナルツアーについての振り返りをする。みんな決めて、みんなで進めた。みんなからエネルギーをもらって、支えられて登頂できたことがうれしかったなどの感想があった。その中でイントラから「山を下りた後、おすしを作るときにみんなが丸くなっていた。懐中電灯を設置したり、虫刺されの薬を出したり、みんながだれかのために動いている。その姿を見てチームだと思った」との言葉があった。また、自分の言葉でチームの雰囲気悪くしてしまったのではないかと感じていたことを謝る姿に、参加者もスタッフも思いを伝え合うことを大切にしているこの活動だからこそだと感じた。その後9人全員が、それぞれ一人ずつにサンクスを伝える。ゆっくりとした時間だが、メンバーが伝える言葉が心にしみる。だれかにありがとうと言ってもらえることはうれしい。しかし、だれかにありがとうと言うためには、相手をよく見ていなくてはできない。サンクスにはそんな意味もある。ここで9人が出会って、共に過ごした3日間に感謝だ。

ペアレントプログラムに参加したメンバーのみの特典となる夜の懇談会では、我が子のがんばりをスタッフから聞き、自分の体験と重ね合わせて涙を流すメンバーも。我が子の様子、成長を聞き、明日子供たちに会うことがより楽しみになったようだった。懇談の時間を生かして、他のメンバーは、プログラムの感想を書いたり、バンダナにメッセージを書き込み合ったりした。夜の山喫茶「かつ」も開店し、コーヒーを飲みながら語り合うメンバー。最後の夜を思い思いに過ごし、それぞれが就寝。

《タイムスケジュール》

- 5：00 起床
- 6：00 朝食
- 6：30 片付け、準備
- 7：00 神角神社奥出発
- 11：00 十種ヶ峰山頂到着
- 11：15 昼食
- 12：05 下山開始
- 13：30 十種ヶ峰青少年自然の家着
- 14：00 クリーンナップ
入浴
- 18：00 夕食
- 19：00 ラストナイトミーティング
- 21：30 個人懇談&各自振り返り
バンダナメッセージ交換
- 23：00 ～就寝



4日目「ファイナルミーティング〜閉会式」

平成29年8月5日(土)
十種ヶ峰青少年自然の家〜各自宅へ
テーマ：旅立ちの日（現実での実践）

【活動の様子】

最終日はこれまでより少し遅めの5時半起床。朝食はボリュームたっぷりのサンドイッチだが、家ではこんなに朝は食べないと言う人もぺろりと食べられる。食器等残りの道具のクリーンナップと自然の家の掃除を手分けして声を掛け合いながら行う。

いよいよ最後は3泊4日のファイナルミーティングだ。1人ひとりがこの4日間を振り返り、感想を伝え合う。「つらくて苦しい時間のほうが長かった。うれしい、喜びは一瞬だったけど、時間の長さではなくて、その大きさと人は幸せになれるんだと感じた。」「仲間がいることの心強さを感じた。この3泊4日を一人ではとてもできない。まわりに仲間がいたからできたこと。いつもは自分一人が物事を動かしていると錯覚していたが大きな間違いだった。」「マンネリ化した日常で同じことのくりかえしだと感じていたが、このプログラムを通して日常の大切さに気づいた。人間の優しさ、自分にもっていないものをみんなが持っていて今後の生活にいかして、充実した人生を送りたい。」「思いを伝えることの大切さを感じた、言葉で書くと簡単だけど難しかった。これから大切にして生活していこうと思う。」「今までに17回引っ越ししている。それぞれの場所に思い出の仲間がいる。今回も、新しいステキな仲間ができた。大人になっても心の仲間ができた。」等、この体験を通して手にした思いを言葉にしてもらった。自分が思っていることを言葉にすることは簡単ではない。この人たちなら聞いてくれるだろう、受け入れてもらえるだろうという信頼関係があるからできる話もある。この4日間で築いたチームの関係があったからこそ、出てきた言葉があったらと思う。

《タイムスケジュール》

5:30	起床
6:00	朝食
7:00	片付け&掃除
8:00	ファイナルミーティング
9:00	解散式（修了証授与）
9:15	解散!!!
	個人ラン応援

解散式ではディレクターから修了証書を一人ずつに手渡した。共に過ごした時間は決して長くはないが、お互いを思いやり、信頼し、助け合える TEAM オー！ 苦しい山道で歌ったり、ごみを拾ったりしながら歩く姿は本当に Good job! だった。

3泊4日のキャンプは今日で終了だが、メンバーそれぞれの場所でまたチャレンジが始まる。背負う荷物が重たく感じて下ろしたくなることもあるだろう。どの道を歩こうか悩むときもあるだろう。行き先が見えずに心が折れそうになるときもあるだろう。しかし、そんなときはこのペアレントプログラムで手に入れたものを思い出して、家族というチームみんなで力強く一歩を踏み出して行ってほしい。

そんな思いを込めて、スタッフ全員で送り出した。

「行ってらっしゃ〜い！！」

